

アクチバシン注 注射液の調製法・投与方法について

〈調製法〉

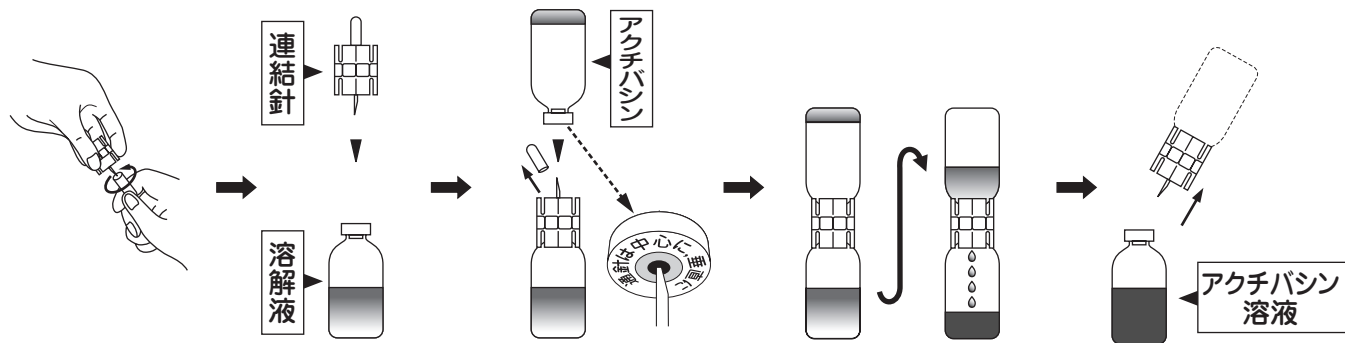
1. 溶解液注入針（連結針）を用いて添付の日局注射用水で溶解します。
瞬時白く泡立ちますが、すぐに無色澄明になります。
なお、本剤は溶解時激しく振らないで下さい（泡立ちが著明となるため）。
2. 上記の溶液を希釈する場合は、日局生理食塩液を用いて下さい。
他の補液類を用いると短時間で白濁することがあります。
3. 希釈して用いる場合には、極力2400万IU/100mL、1200万IU/50mL、600万IU/25mL以上の濃度で使用して下さい。
（本剤の主薬であるアルテプララーゼは水に難溶であるため、溶解補助剤としてアルギニンを追加してあります。本剤の溶液を希釈しすぎるとアルギニンの溶解補助効果が低下し主薬が析出して白濁します。）

〈投与方法〉

1. インフュージョンポンプを用いて投与する場合、投与総量の10%を静脈内に急速投与（1～2分）し、その後残りを1時間で持続注入して下さい。
2. 本剤を希釈して投与する場合、添付の日局注射用水で溶解した溶液の10%を静脈内に急速投与（1～2分）し、その後残りを日局生理食塩液で希釈し、1時間で点滴投与して下さい。
なお、本剤の溶液を先に日局生理食塩液で希釈し、その10%を静脈内に急速投与しても差支えありません。

—— 溶解後は速やかにご使用下さい。 ——

アクチバシン注の溶解方法



溶解液注入針（連結針）の片側のキャップをはずす。

添付の溶解液のバイアルゴム栓の中央に連結針を深く刺入する。

連結針のもう一方のキャップをはずし、アクチバシンのバイアルゴム栓の中央に深く刺入する。^{注1)}

溶解液のバイアルを上にする。^{注2)}

溶解液の空バイアルは連結針と共に抜き去る。
30秒～1分で溶解する。^{注2)}

注1) 連結針はゴム栓の中央（図の●内）にまっすぐに刺入して下さい。

[●内の外に刺入するとゴム栓がバイアル内に脱落する場合があります。]

注2) 強く振らないで下さい。

アクチバシン溶液の希釈における留意点

- 本剤の溶液を希釈して用いる場合は、日局生理食塩液をご使用下さい。〔他の補液類を用いると短時間で白濁することがあります。〕
- 希釈して用いる場合には、極力2400万IU/100mL、1200万IU/50mL、600万IU/25mLより濃い濃度でご使用下さい。〔希釈しすぎると溶解補助剤（アルギニン）の効果が低下するため主薬が析出し白濁します。〕